

## 「地域農業の受け皿に」



中平 悠太 (34 歳)  
(鬼北町)

Uターン

### 1 就農の動機・理由

子供の頃から祖父がやっていた農業に興味があり、よく農作業を手伝っていた。やがて、父が面積を拡大していき、1人では手が回らなくなってきたため、就農を決意した。

乾燥機	3台
糶摺り機	1台
管理機	1台
動力噴霧機	1台
モア	1台
農業用ドローン	1台

### 2 農業経営の概要

#### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成29年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	男2人 (本人、父)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	水田 350a 樹園地 17a 作業受託 250a	水田 1,500a 樹園地 17a 作業受託 500a	水田 2,000a 樹園地 17a 作業受託 1,000a
経営内容	水稲 600a ユズ 17a	水稲 2,000a ユズ 17a	水稲 3,000a ユズ 17a

#### ○農業用施設

農業用倉庫 2棟

#### ○主要農業機械

トラクター 1台  
田植機 1台  
コンバイン 1台  
軽トラック 1台  
フォークリフト 1台

### 3 あしあと

#### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県鬼北町  
就農年月 平成29年11月  
法人化年月 令和2年5月

#### (2) 就農時の思い

生産規模を維持しながら農業技術を習得し、将来的には水稲の大規模経営を目指したいと考えていた。

### 4 就農時の取り組み

#### (1) 技術の習得

父親や先輩農家からアドバイスをもらい、水稲の栽培管理から出荷・販売まで学んだ。

#### (2) 資金の準備

親から継承した農業機械を使用しつつ、田植機、コンバイン及び乾燥機などは自費と鬼北町の担い手事業を活用し、自身が求める性能のものを購入した。

### (3) 農地・住宅の確保

栽培の拠点と考えている自宅の周辺の農地は高齢化による担い手の減少が進んでおり、請け負ってほしいとの声が多いことから農地の確保には大きく困ることは無かった。

### (4) その他苦労したこと

水稻の栽培規模を拡大していくと、1人の経営では想像以上に畦畔の草刈りや水管理が大変であると感じた。

このため、草刈りはシルバー人材センターの活用などで対応しているが、水管理は現在も効果的な省力化の方法を検討している。

## 5 農業経営の特徴

密苗田植機、農業用ドローン及び自動水管理システムの実証試験など、栽培コストの削減や省力化技術の導入に積極的に取り組んでいる。

生産したお米は、独自で販路を開拓し、高単価での販売を行っている。

## 6 これからの夢

鬼北地域では、高齢化でリタイヤする農家や米価の下落で水稻栽培を辞める人が増えている。

耕作放棄地を増やさないために、地域の受け皿になっていかなければならないと思っている。

## 7 成功したキーポイント

親から継承した農業機械や技術を活かしつつ、自身で新規の栽培技術について情報収集を行い、普及機関や役場に相談しながら導入を図っている。

また、同じ町内の先輩農家から栽培技術や販売先の相談に乗ってもらい、技術の向上や高単価で取引してもらえる販売先を見つけられたことはポイントと感じている。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は自分で自由にできる分、責任もついて来ます。しっかりと目標を立て、そこに向かって努力をすれば、必ず目標に近づくことができ、やりがいのある仕事だと思います。

### ○ 指導機関からのひとこと

中平さんは、栽培の省力化を図る新規の技術を積極的に導入しており、着実に経営規模を拡大しています。

高齢化が進み、担い手の減少が進む鬼北町の水田農業において、地域のモデルとなる担い手になることを期待しています。

### 執筆機関

南予地方局地域農業育成室  
鬼北農業指導班  
電話番号 0895-45-0037



ドローンによる水稻の直播作業